

ベナン月報(2017年5月)

主な出来事

【内政】

- 11日, 国民議会において, 議員59名からなるタロン政権を支持する政治グループ「国民議会多数派連合」の誕生が表明された。
- 15日, 政治グループの FCBE に所属する国民議会議員9人は, 議員グループ「Le peuple d'abord(国民第一)」の立ち上げを発表した。
- 29日, 国民議会に新たな議員グループ「La voix du peuple」が正式に立ち上がった。

【外政】

- 9日, タロン大統領は就任後2度目となるケニア訪問を行った。第17回総会ラウンド・テーブルへの出席と「政府行動計画(PAG)」の財政支援の交渉が目的である。

【経済】

- 27日, ヘホメ・インフラ・運輸大臣は, ナチチングーブクンベーコロンティエの3都市間(トーゴ国境沿い)の道路建設・アスファルト化工事の立ち上げ式を行った。

※下記内容は, La Nation 紙, Le Matinal 紙, L'Événement Précis 紙, L'économiste 紙, La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 2日, シコエ観光・文化大臣はテレビ番組に出演し, 芸術・文化・観光について自身の方針について説明した。芸術・文化面では発足して25年経つ芸術文化基金の刷新, 地域に眠っている才能の発掘や著作権の保護について, また, 観光では仏国への芸術品の返還要求, ポルト・ノボ, アボメにある博物館の改築や新たな博物館の建設, 観光ガイドの育成などについて説明した。(3日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 5日, タロン大統領は, 大ノクエ地区(Grand Nokoue)のインフラ・生活環境改善について, ウィダ, アボメカラビ, コトヌ, セメポジ, ポルト・ノボ各市長と意見交換を行った。当問題については, 政府行動計画(PAG)でも最優先45案件の一つとなっており, その実現に向けて, 380kmに及ぶ道路の整備や改修計画, 大ノクエ地区に4つのゴミセンターを作る計画や市場の整備などについて意見交換を行った。(8日, Le Matinal 紙)
- ・ 8-9日, 国民議会において議員グループから多数の議員が辞職した。現在ある8つの議員グループは今後4つになることとなった。4月に行われた憲法改正案が否決されたことが国民議会内の議員グループの再編に繋がっている。(10日, Le Matinal 紙)
- ・ 11日, 国民議会において, 59人の議員からなるタロン政権を支持する政治グループ「国民議会多数派連合」の誕生が表明された。(12日, Le Matinal 紙)
- ・ 15日, 政治グループ FCBE に所属する国民議会議員9人は, 議員グループ「Le peuple d'abord(国民第一)」の立ち上げを発表した。(16日, La Nation 紙)
- ・ 19日, RB(La Renaissance du Benin)執行部メンバーはアボメで緊急会合を開き, レア

ディ・ソグロ・コトヌ市長を同党党首から罷免する、また、党からも追放すると通告した。レ
アディ・ソグロ氏の統括手腕と独断による党の運営は、甚大な損害を招いたと会合では述
べられた。ソグロ氏はこの決定を不服としている。(23日, La Nation 紙)

- ・ 22日, コトヌ初等裁判所第一審で, 高等視聴覚通信局(HAAC)と Ideal Production(Sikka TVの親会社)の訴訟問題で, Sikka TVが閉鎖されたことに関して, 裁判所は HAAC 総裁に5千万 FCFAの損害賠償の支払いを命じた。(23日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 27日, アザナイ氏夫妻はソグロ氏宅を訪ねた。コトヌ市長である「Renaissance du Benin」党首と「le Parti Restaurer l'Espoir」党首の会談となった。会談は一時間強行われ, ソグロ氏はメディアに対し, 「彼の訪問の解釈は皆さん各々考えるだろうが, 私たちにとっては大きな支援だ」と述べた。(29日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 29日, Issa Salifou氏は23日に立ち上げを発表した議員グループ「La voix du peuple」の存続に成功した。同グループの設立には, Affo OBO氏の同グループへの合流が必要であったが, 同氏は旧所属の「Nation et développement」か, 新グループに所属するかを明らかにしていなかったが, 結局新グループへ合流することとなった。また, これにより, Rosine Soglo氏率いる「Nation et développement」はメンバーが8人となり, 国民議会内規に定められている9名を下回りグループは解散となる。(30日, La Nation 紙)
- ・ 日刊紙の「Le Béninois Libéré」は, 2011年の12月8日に高等視聴覚通信局(HAAC)より「職務上の倫理規則の違反」で閉鎖されていたが, 5月31日の最高裁判所の判決によって当日刊紙は権利が認められ再開の許可を得た。(6月1日, Le Matin Libre 紙)

【外政】

- ・ 9日, タロン大統領は就任後2度目となるケニア訪問を行った。第17回アフリカ貿易保険庁総会ラウンド・テーブルへの出席と「政府行動計画(PAG)」の財政支援の交渉が目的である。(10日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 21日, タロン大統領は, サウジアラビアのリヤドに滞在し, 米・アラブ・イスラム首脳会合に出席した。22日からは, インド・アフマダーバードで開催される第52回アフリカ開発銀行グループ年次会合に出席する。リヤドでは, 様々な重要人物とベナンとの協力に関して, 意見交換を交わした。サウジアラビアの投資家とベナンの将来に向けての投資の可能性について話し合った。また, アフリカ開発銀行の幹部と同機構への加盟に関し, 話し合いを行った。(23日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 22日, サウジアラビアの「援助と慈善事業の為のサルマン王センター」は50トン(2500箱)のナツメヤシをベナンのムスリム教徒に寄与することを発表。(23日, La Nation 紙)

【治安】

- ・ 14日, ボイコンーダッサズメ間で, トラックとトーゴナンバーのミニバスとの事故が発生し, 13人が死亡した。運転手の不注意が原因と考えられ, トラックの運転手を含む8人は, 火災の影響でほぼ炭化した状態で発見された。また, 残りの5人についても即死だった。(15日, Le Matinal 紙)

- ・ 15日の週に、ケトゥ市イディニ地区で、村人とフラニ族遊牧民の間で銃撃戦があり6人が死亡し多数の怪我人を出した。地元農家と毎年牧草地を求め家畜を連れて来るフラニ族放牧家の間で土地を巡る問題があり、今回もそれに関連したものと考えられる。(23日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 22日, コトヌ市のベドコ地区で事故が発生した。街の中心広場であるエトワールルージュから来た乗用車が電柱に衝突し、その電柱は、ちょうど路上の混合ガソリン売店に倒れてしまった。車は火に包まれたが消防士の活躍で消し止められた。2人の怪我人はコトヌの病院に搬送された。(23日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 2016年, ベナンで29人が動物製品の密売容疑で逮捕された。その中で罰を受けたのは11人のみであり残りの62%は罰を受けていない。彼らは象牙, センザンコウの皮, 法律で保護されている海亀の甲羅などを持っていたため, 現行犯逮捕された。法律では, 原産証明書の不所持, 輸出入や売買目的でこれらの動物の製品を持っていると相応の罰が科せられるが, 多くが受けていない。(26日, Le Matinal 紙)
- ・ 31日, サッカ・ラフィア内務・治安大臣は新番号立ち上げを発表した。災害や事件の際に迅速に対処する国家システムが強化されることになった。電話番号166番で, ベナン全土24時間無料で, 国民が被害者又は目撃者となった際, つまり強盗, 交通事故, 火事など全ての災害時に利用可能である。憲兵・警察・消防が対応する。(6月1日, La Nouvelle Tribune 紙)

【経済】

- ・ 6日, トーゴのマジャトンにおいて, ベナン・トーゴ間の国境画定工事, また, 7つの井戸事業の起工式が行われた。両計画はドイツの協力によるもので, 井戸工事による裨益者は両国で21,000人にのぼる。一方, 国境画定工事に関しては, 2016年10月にアフリカ連合(AU)でも国境画定推進の声明がなされており, 今回はその一環によるものである。(8日, Le Matinal)
- ・ 2016-17年のベナンにおける綿花の生産量は, 予想されていた35万トンを超える, 45万3012.6トン記録し, 統計を開始した1990年以降最大となった。生産業, 収穫業, 運輸業者の負債の前払いをタロン政権が行ったことにより業界を刺激したことが要因である。(15日, L' économiste 紙)
- ・ 6月1日は樹木の日であり, 33回目を迎える今年は, ドンガ県に45万本, アタコラ県に30万本の計75万本が植林される。これは木材需要に応えるためと, 気候変動の影響を緩和することを目的とし, 国土の緑化を図っていくとしている。(18日, La Nation 紙)
- ・ 19日, ベナン民間投資家連合はカシューナッツ業界の革命に関する勉強会を開催した。同連合代表のリポー氏は, カシューナッツはマレーシアで経済の多角化を可能にしたヤシ油のような役割を果たし得ると述べた。ベナン経済は綿花, 港湾サービス, カシューナッツの3つの柱を基礎とする事で, 石油価格の変動に依存しなくて済むようになるとしている。(22日, Le Matin Libre 紙)

- ・ 24日、カシューナッツの衛生や輸出に関わる国際基準について勉強会が行われた。国際市場におけるカシューナッツの競争力強化が目的である。カシューナッツはベナンの主要輸出品目であり、2013年には、12.4万トンの生産量であり、ベナンの輸出の約8%を占め、輸出農産物の24.87%を占め、農業の国内総生産の7%を占めている。(26日、La Nation 紙)
- ・ 24日、スルレレ小学校の生徒達は横浜市立笠間小学校から送られた贈り物を受け取った。贈呈式はスルレレ小の生徒及び教師出席の下、内田駐ベナン日本国大使館開発協力班長によって執り行われた。また、同氏はスルレレ小の生徒たちから送られた贈り物を受け取った。贈呈式の後、日本国大使館は折り紙教室を開催した。(31日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 27日、ヘホメ・インフラ・運輸大臣は、ナチチングーブクンベーコロソティエの3都市間(トーゴ国境沿い)の道路建設・アスファルト化工事の立ち上げ式を行った。同計画は60kmに及ぶ工事で24か月を計画しており、Sogea Satom 社により施工され事業総額は、690億 FCFA にのぼる。(29日、L'Événement Précis 紙)